

201128001B

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患克服事業

難治性疾患克服のための難病研究 資源バンク開発研究

平成 21 年度～23 年度 総合研究報告書

研究代表者

亀岡 洋 祐

平成 24 年(2012)年 3 月

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患克服事業

難治性疾患克服のための難病研究 資源バンク開発研究

平成 21 年度～23 年度 総合研究報告書

研究代表者

亀岡 洋祐

平成 24 年(2012)年 3 月

目 次

研究班名簿	1
I. 総合研究報告書	
亀岡 洋祐	3
II. 分担総合研究報告	
1. 疾患関連細胞の作製	
梅澤 明弘	21
2. アカデミア主導の新規医療開発における患者保護とヒト由来試料「バンク」における基盤整備-試料研究における倫理指針の検討-	
横出 正之	24
3. HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) 患者生体試料の収集保存と難病研究資源バンクとの連携の確立	
山野 嘉久	39
4. 難病研究資源バンクに関する倫理課題の検討	
増井 徹	47
5. ヒト疾患関連組織の長期継代維持と保存法研究	
野村 大成	55
6. 疾患関連細胞の品質評価ならびにキャラクタライズ研究	
小原 有弘	61
III. 平成 21 年度～平成 23 年度の研究成果の刊行に関する一覧表	67

研究班名簿

厚生労働省難治性疾患克服研究事業
難治性疾患克服のための難病研究資源バンク開発研究班

	氏名	所属等	職名
研究代表者	亀岡 洋祐	独立行政法人医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部 難病資源研究室	主任研究員
研究分担者	梅澤 明弘	独立行政法人国立成育医療研究センター 生殖・細胞医療研究部	部長
	横出 正之	京都大学医学部附属病院探索医療センター 探索医療臨床部	教授
	山野 嘉久	聖マリアンナ医科大学難病治療センター 病因・病態解析部門	部門長
	増井 徹	独立行政法人医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部	部長
	野村 大成	独立行政法人医薬基盤研究所疾患モデル 小動物研究プロジェクト	プロジェクトリーダー
	小原 有弘	独立行政法人医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部 培養資源研究室	研究員
研究協力者	村山 敏典	京都大学医学部附属病院探索医療センター 探索医療臨床部	講師
	猪原 登志子	京都大学医学部附属病院探索医療センター 探索医療臨床部	特定助教
	高橋 一朗	独立行政法人医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部 難病資源研究室	主任研究員
	古江-楠田美保	独立行政法人医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部 培養資源研究室	研究リーダー
	松田 潤一郎	独立行政法人医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部 疾患モデル小動物研究室	研究リーダー
	長田 直樹	国立遺伝学研究所進化遺伝学研究室	助教
	坂手 龍一	独立行政法人医薬基盤研究所難病・疾患資源研究部 難病資源研究室	研究員

I 総合研究報告書

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）
総合研究報告書

難治性疾患克服のための難病研究資源バンク 開発研究

研究代表者 亀岡洋祐 独立行政法人医薬基盤研究所 主任研究員

研究要旨:本研究では難治性疾患克服研究事業の研究班により収集された患者試料を集中化して品質管理を行う「難病研究資源バンク」を創設に伴う問題点を検討し、統合的管理・支援体制を整備し、品質管理された試料を公平に基礎研究機関に提供するシステム構築を目指している。難治性疾患克服研究事業の研究班から全国ネットで診断研究センターを形成している研究班との共同事業等を進め全国規模での患者試料収集の体制を整えてきた。これまでに総計で534件の患者試料を集積した。HTLV1関連脊髄症、希少難治性皮膚疾患、褐色細胞腫、網膜変性症、神経変性疾患の研究班との共同事業を始め、18研究者との収集体制を構築した。最終年度までに、研究利用のための分譲体制を整え、分譲の倫理審査も承認され研究利用の実行体制が構築された。この難病研究資源バンクの体制により継続的に事業が進めることができる。尚、この3年間の調査研究と経験に基づいた事業解析と将来像については、分担研究者増井の総合（分担）報告書に詳しい。

A. 研究目的

難治性疾患のうち頻度の低い疾患については、臨床現場において患者を経験することはまれであり、患者試料等の集中化がなされなければ、多数の症例試料を必要とする疾患克服研究の実現は困難である。このような希少疾患試料を経年蓄積収集し集中保存管理し、研究者に提供することで統計的に有意な研究が可能となり、この困難性を乗り越えることができる。

本研究の目的は難治性疾患試料等の「難病研究資源バンク」を設立するための問題点を明らかにし、難病研究資源バンクの具体的なシステム構築を検討することによって、難治性疾患克服研究の推進に貢献することにある。

これまで30年以上にわたり継続されてきた難治性疾患克服研究班の協力を得て試料等を「難病研究資源バンク」に集中化し、品質管理された患者試料等を一定の規模で集積し統一的研究試料等の提供を行うことにより、研究班を支援すると同時に班外の研究者への公平かつ効率的な研究利用促進を図り、難病研究資源のワンストップバンクを創生することは疾患克服研究推進に大いに貢献することが考えられる。

試料提供の公平性に関しても、これまでの公的バンク運営経験やノウハウ等を活かすとともに、研究利用委員会を設置して研究利用における科学的妥当性を判断し、疾患克服研究に有効な資源提供シ

システムを構築することを目指した。疾患患者の権利保護や研究利用の倫理問題、また診断臨床医の権利など、法的倫理的及び権利調整の問題克服が重要課題であり、難病克服研究班との生体試料収集協力に向けた話し合いの中で、この課題での具体的対応策について検討を進め、具体的な難病研究資源バンク活動を進めることを目的とする。

B. 研究方法

難治性疾患克服研究事業の対象疾患は指定 130 疾患及び推進領域と多岐にわたり個々の疾患の克服研究を進める上で有用な研究試料も多種類にわたる。難治性疾患患者試料の収集の拠点となるのは当該疾患の研究を継続的に進めてきた研究班であり、当該研究班の協力を受けて患者試料収集のルートを構築することが要となる。平成 21 年度には、創設された「生体試料等の収集に関する研究」事業に採択された課題の主任研究者に対して協力を要請するとともに、収集に携わる研究者との交渉、当該医療機関における医学研究倫理審査に合わせた生体試料収集のための倫理申請のサポート、また、収集実務のフローを確立することを通じて、各機関の生体試料収集を円滑に進めるための支援体制を行った。この経験を解析し、改善して、より適切な難病研究資源バンクの構築を行った。また、各研究班からの生体試料受け入れに関し審査を行う難病研究資源バンク研究倫理審査委員会を外部有識者を含めて組織し、公明公正な公的バンク運営を行う体制を整えた。(倫理面への配慮)

本研究事業は患者の個人試料を難病研究資源バンクで取り扱うことから、医学

研究倫理遵守は中心の課題であり、実際に患者試料の収集に当たる医療機関の実情に合わせ倫理申請の支援を行い、患者試料の受入れに関しても難病研究資源バンクの研究倫理委員会の審査を受けることにより、適正に対応を進めた。基本として、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針に従った。また、難病資源の希少性には注意を払い、全体の構築を進めた。

C. 研究結果

「生体試料等の収集に関する研究」事業に採択された 51 の研究代表者等へのアンケート調査や個別交渉により、これまでに生体試料収集に対応が可能な 28 の研究班に関して試料収集のための交渉を進めた。研究班の所属機関の倫理審査委員会により生体試料のバンクへの提供の承認が得られ、現在までに 19 件を難病バンク研究倫理審査委員会に倫理審査を申請し、19 件が承認を受けている。

実際に難病バンクに提供された症例数は HTLV-1 関連疾患 (聖マリアンナ医大山野班) 394 件 (DNA、血清、血漿、末梢血リンパ球)、多発性奇形症候群 (慶応大学小崎准教授) 2 症例 (DNA)、ケネディー症候群 12 件 (国立成育医療センター梅澤研)、褐色細胞腫関連 64 件 (国立京都医療センター成瀬部長)、計 534 件である。(図 1.2 参照) 試料別の内訳は DNA107 件、血清 64 件、血漿 256 件、末梢血単核球 49 件であった。これらの DNA については、SOP に従って品質管理を行っている。また、連携事業を行っている熊本大学より、iPS 細胞 70 クローンの提供を受けた。

図 1

今年度の到達点 2 (～H23.2.29)

分譲フェーズ①: 3,649件

項目名	今年度	前年度	累計	今年度分譲件数 (100%)	今年度分譲率	累計
1 HFLV-1関連症候群	95 (63)	0 (0)	192 (0)	49 (0)	25 (0)	294 (113)
2 HFLV-1感染症 (未発表)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
3 多発性骨髄質腫瘍	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
4 シネシア症 (非特異性炎症性腸病)	12 (0)	0 (0)	12 (0)	12 (0)	100 (0)	12 (0)
5 厚皮性アルドステロン症	21 (0)	21 (0)	42 (0)	42 (0)	100 (0)	42 (0)
6 厚皮性アルドステロン症 (特異性アルドステロン症)	6 (0)	6 (0)	12 (0)	12 (0)	100 (0)	12 (0)
7 厚皮性アルドステロン症 (特異性アルドステロン症)	4 (0)	4 (0)	8 (0)	8 (0)	100 (0)	8 (0)
8 厚皮性アルドステロン症 (アルドステロン産生腫瘍)	13 (0)	13 (0)	26 (0)	26 (0)	100 (0)	26 (0)
9 シンクロナイズド腫瘍	2 (0)	2 (0)	4 (0)	4 (0)	100 (0)	4 (0)
10 シンクロナイズド腫瘍 (アルドステロン産生腫瘍)	4 (0)	4 (0)	8 (0)	8 (0)	100 (0)	8 (0)
11 褐色腫瘍	1 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	100 (0)	2 (0)
12 褐色腫瘍 (神経鞘腫)	2 (0)	2 (0)	4 (0)	4 (0)	100 (0)	4 (0)
13 褐色腫瘍 (神経鞘腫)	3 (0)	3 (0)	6 (0)	6 (0)	100 (0)	6 (0)
14 褐色腫瘍 (神経鞘腫)	4 (0)	4 (0)	8 (0)	8 (0)	100 (0)	8 (0)
15 非特異性炎症性腸病	4 (0)	4 (0)	8 (0)	8 (0)	100 (0)	8 (0)
計	107 (17%)	64 (36%)	256 (63%)	49 (38%)	58 (23%)	534 (77%)

※平成24年3月～30日、HFLV-1関連症候群症例(192例)と多発性骨髄質腫瘍症例(192例)の分譲率を算出。21例のHFLV-1感染症(未発表)は分譲率を算出しない。

図 2

今年度の到達点 1 (～H23.2.29)

項目	実績
対応中の収体研究班	18 (24)
倫理審査件数 (継続審査含む)	17 (12)
倫理審査承認件数	13 (7)
収集症例数	317 (158)
収集試料数	534 (176)
分譲可能 (公開) 試料数	362 (174)
分譲件数 (初年度)	1 件100症例
症例数	15 (3)

() 内は前年度

システム整備として難病バンクで取り扱う難病等の研究資源の標準取り扱い手順書 (SOP) を作成し、これにしたがって寄託された試料の品質管理、保存管理を行った。また、難病バンク専用の超低温フリーザー3機、液体窒素タンク3基等を入退出管理システムにより隔離された部屋に整備し、試料情報の管理用に外部から遮断された専用の LAN を構築した。これらの設備で、SOP に準じて、寄託された試料について DNA に関しては濃度及びアガロースゲルによる品質管理を行った。

難病バンクへの理解と協力を得るため啓蒙活動として、基盤研難病バンク独自および難病バンクを構成する三機関 (基盤研、理研 BRC、熊本大) 連携のパンフレットを製作し、難病関連シンポジウム等で配布した。また、難病研究関係学会、日本難病・疾病団体協議会、難病・慢性疾患全国フォーラムにおいてブース出展

等の広報活動に努めた。2011年10月に大阪 (千里中央) において難病バンク主催「難病研究と創薬 2011」シンポジウムを含め、3年間で2回のシンポジウムを開催し、それぞれの会において、約100名の出席を得ることができた。また、難病バンクに関する新聞報道等は18件、難病研究資源バンクの広報に関連する学会等のセミナー・講演会等16件を行い、難病バンクの広報に努めた。

社会一般への広報と研究者への情報発信のため、難病資源バンクのホームページ (URL <http://raredis.nibio.go.jp/>) を開設した。これにより難病バンクのタイムリーな情報を広く発信できるようになるとともに、研究者からの情報の受け入れも容易になった。アクセス数は月平均で230回を超え2010年5月の運用開始から4400回を超えた。2011年10月より研究資源分譲のホームページを開始し、登録者に対して分譲可能な患者試料のデータを公開した。現在までの登録者は49名となっている。

また、試料分譲のための体制整備を終了し、本年11月の分譲可能資源の公開時より資源の分譲を受け付けることが可能となった。現在1件の分譲が研究倫理審査委員会の承認を受けた。

分担研究者増井は難病研究資源バンク運営に係わる倫理的側面からの組織の基本構成とその基準となる一連の規約等の策定に当たり、これによって難病研究資源バンクの運営を公正公明に行えるように本研究での役割を果たした。この3年間の調査研究と経験に基づいた事業解析と将来像については、分担研究者増井の総合 (分担) 報告書に詳しい。

分担研究者横出は新規医療開発におけ

る患者保護や基盤システム構築の経験から、難治性疾患研究における「臨床研究に関する倫理指針」「疫学研究における倫理指針」「ヒトゲノム・遺伝子解析研究における倫理指針」の各指針の適用範囲と、トランスレーショナルリサーチまでの研究の進行における患者由来試料の取り扱いにおける問題点を解析し、難病研究資源バンク運営における法的倫理的必要事項を示した。

分担研究者小原は細胞バンクに既に登録されている難治性疾患患者由来細胞の培養資源化を図ることによって難治性疾患研究に資する培養細胞の整備を行い色素性乾皮症、ファンコニ貧血症の細胞を資源化することにより本事業に貢献した。

分担研究者山野は最終年度のみ分担研究として参加したが、HTLV1 関連神経疾患 (HAM) 診断の日本のセンターとして活動しており、難病研究資源バンク設立当初より HTLV1 関連脊髄症 (HAM) の患者試料収集と難病研究資源バンクへの試料寄託に積極的に取り組み今年度末までに 500 例近い患者試料を収集し、大規模研究に応用できる研究資源の構築を進め本事業に大きく貢献している。

分担研究者梅澤は、所属する成育医療研究センターにおける既存の難治性疾患患者試料研究資源として寄託可能なものを難病研究資源として寄託するとともに、遺伝病患者由来細胞をもとに iPS 細胞を作成し、その性状を検討し研究資源として提供することを試みた。

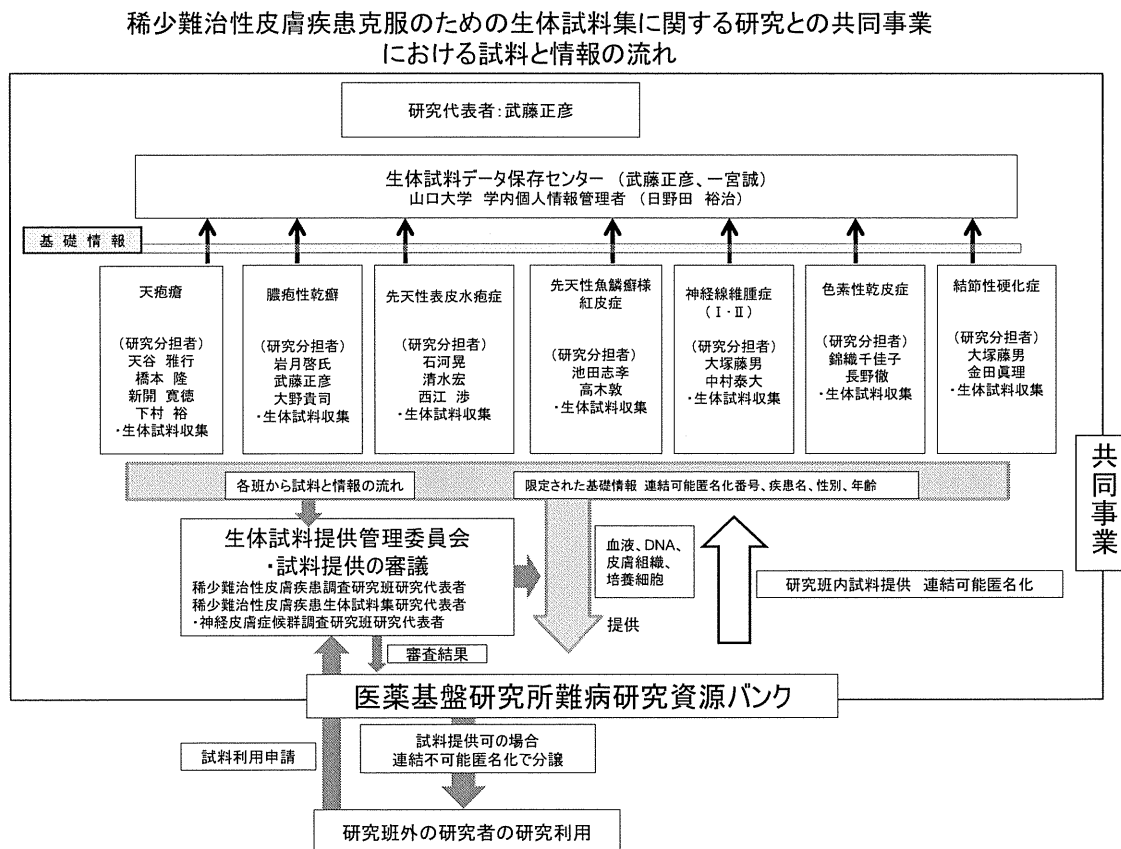
分担研究者野村は貴重な患者試料を生体内で維持する高度な研究資源を作出するための技術として免疫不全マウスである SCID マウスの体内でのヒト組織を生き

たまま維持する技術を確立し、難治性疾患患者研究資源の高度化に寄与した。

上記の分担研究者の協力により、難病研究資源バンク開発研究としての難病研究資源バンクの事業化における問題点と今後進めるべき方策を描くことができた。

難治性疾患克服研究事業においては 300 近い研究班があるが、過去 30 年間の事業の中で継続的に班研究を行ってきた研究班は全国的なネットワークが形成しており、このような全国規模で組織化された研究班とタイアップすることによって、難治性疾患患者試料の収集を効率よく進めることができることを、聖マリアンナ医科大学山野班との連携による成果が示している。このことから、岡山大学岩月総班長のもと「希少難治性皮膚疾患に関する調査研究班」の生体試料収集班である山口大学武藤班と連携し、生体試料収集を行う体制を整備し (図 2 参照) 全国レベルでの希少難治性皮膚疾患患者試料の収集整備が期待できる。神戸先端医療センター高橋班 (理研発生再生科学総合研究センター併任) は網膜変性症の診断拠点として活動しており、高橋班との連携共同事業も整備することができた。京都医療センター成瀬班を中心として副腎資源バンクとの連携共同事業を設定し血清 64 検体、血漿 64 検体計 128 検体を受入れた。成瀬班は褐色細胞腫の診断センターとして Open PHEOnet 設立し活動しており全国レベルでの患者試料収集が期待できる。また神経変性疾患に関する調査研究班 (総班長中野) のもと鳥取大学中島班との共同事業も整備が進みパーキンソン症候群の試料収集を進めている。

図2 センターとなる研究班との共同事業の例



D. 考案

本研究では「難治性疾患対策研究、生体試料等の収集に関する研究」により収集された患者試料を集中化して品質管理を行う「難病研究資源バンク」を創設し、統合的管理・支援体制を整備して、品質管理された試料を基礎研究機関に提供し、難治性疾患克服研究の、より一層の効率的推進を図ることを目的としている。個々の研究班との試料提供に関する交渉の中で各機関の倫理審査申請などのサポートが重要な部分であり時間的、労力的にも大きく力を割かなければならなかった。生体試料収集に当たる各機関や研究

班の状況把握と倫理審査申請サポートについて集中的に注力する必要があった。難病バンクにおいて患者説明書、同意書、申請書などの標準フォームを提供したことは一定の効果があったと考えられる。

生体試料収集の点で最も進んだのは聖マリアンナ医大山野班であり、この要因として全国 HAM の診断センターとして活動していることによるものと思われる。山野班からは年度末までに 500 を超える試料が集積されることが予想される。同じように全国ネットで褐色細胞腫診断センターとなっている京都医療センター成瀬班からも 96 試料が寄託される予定であ

る。同様な全国的な診断研究ネットを形成している研究班として、「希少難治性皮膚疾患に関する調査研究班」岩月班(武藤班)、網膜変性症の診断拠点として活動している神戸先端医療センター高橋班、「神経変性疾患に関する調査研究班」中野班(中島班)などとの連携共同事業を進めることができ、今後、多数の生体試料が集積されることが期待される。10月には試料データベースを登録者に公開し、ユーザー登録による利用促進を進めている。また、試料の分譲についても体制整備を整え、研究利用のための分譲申請を受け、研究利用委員会、分譲のための研究倫理審査委員会の承認を受け、実際の研究利用分譲が行えることとなった。研究班内からの分譲申請ではあるが、研究利用分譲における問題点も検証することができた。

E. 結論

本研究事業の目的は「難治性疾患対策研究、生体試料等の収集に関する研究」により収集された患者試料を集中化して品質管理を行う「難病研究資源バンク」を創設し、統合的管理・支援体制を整備して、品質管理された試料を公平に基礎研究機関に提供し、難治性疾患克服研究のより一層の効率的推進を図ることにある。難病研究資源バンクのハードソフト両面でのシステム構築がなされ、試料の収集から分譲まで行える体制として整えることができた。本稿作成時点での収集試料の総数は534件ではあるが、全国のセンターとなる機関との連携共同事業が進んでいることから、加速度的に試料の

集積が進んでいくことが予想される。さらに多くの難治性疾患研究班と共同事業を進めることによって、難治性疾患を広く網羅する研究資源バンクを構築する必要がある。また研究資源は疾患克服研究のためのものであり、集積した試料の研究利用分譲を進めることが、本事業において重要であると考えられる。難病研究資源バンクとしてのシステム構築は整備され事業の継続発展が期待される。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

【21年度】

1. Osada N, Hirata M, Tanuma R, Suzuki Y, Sugano S, Terao K, Kusuda J, Kameoka Y, Hashimoto K, Takahashi I. Collection of *Macaca fascicularis* cDNAs derived from bone marrow, kidney, liver, pancreas, spleen, and thymus. *BMC Res Notes*. 2009 Sep 29;2:199.
2. Miura NN, Komai M, Adachi Y, Osada N, Kameoka Y, Suzuki K, Ohno N. IL-10 is a negative regulatory factor of CAWS-vasculitis in CBA/J mice as assessed by comparison with Bruton's tyrosine kinase-deficient CBA/N mice. *J Immunol*. 2009 Sep 1;183(5):3417-24. Epub 2009 Aug 12.
3. Higashino A, Osada N, Suto Y, Hirata M, Kameoka Y, Takahashi I, Terao K. Development of an integrative database with 499 novel microsatellite markers for *Macaca fascicularis*. *BMC Genet*. 2009 Jun 5;10:24.
4. Nagata S, Toyoda M, Yamaguchi S, Hirano K, Makino H, Nishino K, Miyagawa Y, Okita H, Kiyokawa N,

- Nakagawa M, Yamanaka S, Akutsu H, Umezawa A, Tada T. Efficient reprogramming of human and mouse primary extra-embryonic cells to pluripotent stem cells. *Genes Cells*. 14(12):1395-1404, 2009.
5. Makino H, Toyoda M, Matsumoto K, Saito H, Nishino K, Fukawatase Y, Machida M, Akutsu H, Uyama T, Miyagawa Y, Okita H, Kiyokawa N, Fujino T, Ishikawa Y, Nakamura T, Umezawa A. Mesenchymal to embryonic incomplete transition of human cells by chimeric OCT4/3 (POU5F1) with physiological co-activator EWS. *Exp Cell Res*. 315(16):2727-2740, 2009.
 6. Sugimoto M, Arai H, Tamura Y, Murayama T, Khaengkhan P, Nishio T, Ono K, Ariyasu H, Akamizu T, Ueda Y, Kita T, Harada S, Kamei K, Yokode M. Mulberry leaf ameliorates the expression profile of adipocytokines by inhibiting oxidative stress in white adipose tissue in db/db mice. *Atherosclerosis*. 204(2):388-94
 7. Shimada K, Murayama T, Yokode M, Kita T, Uzui H, Ueda T, Lee JD, Kishimoto C. N-acetylcysteine reduces the severity of atherosclerosis in apolipoprotein E-deficient mice by reducing superoxide production. *Circ.J*. 73(7):1337-41, 2009
 8. Sumi E, Murayama T, Yokode M. A survey of attitudes toward clinical research among physicians at Kyoto University Hospital. *BMC Med Edu* 9: 75, 2009.
 9. Tamara Y, Sugimoto M, Murayama T, Minami M, Nishikaze Y, Ariyasu H, Akamizu T, Kita T, Yokode M, Arai H. C-C Chemokine Receptor 2 Inhibitor Improves Diet-Induced Development of Insulin Resistance and Hepatic Steatosis in Mice. *J Atheroscler Thromb*. 2010[Epub ahead of print]
 10. The International Cancer Genome Consortium: Masui, T. as an International Data Access Committee. International network of cancer genome projects. *Nature* 2010, In Press.
 11. 増井徹、バイオバンク、生命倫理、編集：玉井真理子、大谷いづみ、有斐閣、2008
 12. 増井徹. バイオバンクの現状と将来。「遺伝子診断学」日本臨床. 2010
 13. Iwamori M, Shibagaki T, Nakata Y, Adachi S, Nomura T. Distribution of receptor glycolipids for Lactobacilli in murine digestive tract and production of antibodies cross-reactive with them by immunization of rabbits with Lactobacilli. *J Biochem*. 146(2):185-91, 2009.
 14. M. Kodaira, H. Ryo, N. Kamada, K. Furukawa, N. Takahashi, H. Nakajima, T. Nomura and N. Nakamura No evidence of increased mutation rates at microsatellite loci in offspring of A-bomb survivors. *Radiat. Res*. 173, 205-213, 2010.
 15. Shigeki Adachi, Haruko Ryo, Tadashi Hongyo, Hiroo Nakajima, Rie Tsuboi-Kikuya, Yoriko Tokita, Fumio Matsuzuka, Keizo Hiramatsu, Kazuo Fujikawa, Tetsuo Itoh, Taisei Nomura Effects of Fission Neutrons on Human Thyroid Tissues Maintained in SCID Mice. *Mutat Res.*, 696,107-113 2010
 16. 野村大成、梁治子、足立成基、時田偉子、堀家なな緒、中島裕夫、本行忠志、藤川和男、伊藤哲夫、落合俊昌、行徳淳一郎、桂洋介。宇宙環境の人体影響評価（2009年度ワーキンググループ活動報告）*Space Utiliz Res*. 26: 249-251, 2010.
- 【22年度】
1. Osada N, Uno Y, Mineta K, Kameoka Y, Takahashi I, Terao K. Ancient

- genome-wide admixture extends beyond the current hybrid zone between *Macaca fascicularis* and *M. mulatta*. *Mol Ecol*. 2010 Jul;19(14):2884-95. Epub 2010 Jun 23.
2. Toyoda M, Yamazaki-Inoue M, Itakura Y, Kuno A, Ogawa T, Yamada M, Akutsu H, Takahashi Y, Kanzaki S, Narimatsu H, Hirabayashi J, Umezawa A. Lectin microarray analysis of pluripotent and multipotent stem cells. *Genes Cells*, 16(1):1-11, 2011.
 3. Higuchi A, Ling QD, Ko YA, Chang Y, Umezawa A. Biomaterials for the Feeder-Free Culture of Human Embryonic Stem Cells and Induced Pluripotent Stem Cells. *Chem Rev*, dx.doi.org/10.1021/cr1003612, 2011.
 4. Inamura M, Kawabata K, Takayama K, Tashiro K, Sakurai F, Katayama K, Toyoda M, Akutsu H, Miyagawa Y, Okita H, Kiyokawa N, Umezawa A, Hayakawa T, Furue MK, Mizuguchi H. Efficient Generation of Hepatoblasts From Human ES Cells and iPS Cells by Transient Overexpression of Homeobox Gene HEX. *Mol Ther*, 19(2):400-407, 2011.
 5. Nishino K, Toyoda M, Yamazaki-Inoue M, Makino H, Fukawatase Y, Chikazawa E, Takahashi Y, Miyagawa Y, Okita H, Kiyokawa N, Akutsu H, Umezawa A. Defining hypo-methylated regions of stem cell-specific promoters in human iPS cells derived from extra-embryonic amnions and lung fibroblasts. *PLoS One* 5(9):e13017, 2010.
 6. Toyoda M, Hamatani T, Okada H, Matsumoto K, Saito H, Umezawa A. Defining cell identity by comprehensive gene expression profiling. *Curr Med Chem* 17(28):3245-3252, 2010.
 7. Hatta T, Murayama T, Narita K, Sumi E, Yokode M Trend Analysis of Informed Consent Research in Clinical Trials: Comprehensive Retrieval via Electronic Databases. *Jpn J Clin Pharmacol Therapeutics*, 2011;42:21-25.
 8. Horie T, Ono K, Horiguchi M, Nishi H, Nakamura T, Nagao K, Kinoshita M, Kuwabara Y, Marusawa H, Iwanaga Y, Hasegawa K, Yokode M, Kimura T, Kita T. MicroRNA-33 encoded by an intron of sterol regulatory element-binding protein 2 (Srebp2) regulates HDL in vivo. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2010;107:17321-17326.
 9. Shimada K, Mikami Y, Murayama T, Yokode M, Fujita M, Kita T, Kishimoto C. Atherosclerotic plaques induced by marble-burying behavior are stabilized by exercise training in experimental atherosclerosis. *Int J Cardiol*. 2011 in press
 10. Shimada K, Murayama T, Yokode M, Kita T, Fujita M, Kishimoto C. Olmesartan, a novel angiotensin II type 1 receptor antagonist, reduces severity of atherosclerosis in apolipoprotein E deficient mice associated with reducing superoxide production. *Nutr Metab Cardiovasc Dis*. 2011 in press
 11. 村山敏典, 横出正之 【はじめての臨床応用研究】 知っておきたい臨床応用への制度 高度医療と先進医療 遺伝子医学MOOK別冊はじめての臨床応用研究 Page26-34(2010.11)
 12. 横出正之 動脈硬化における血管・血球細胞応答 仮説から新規創薬へ *The Lipid* 21 巻 4 号 Page380-387(2010.10)
 13. 横出正之 【テーラーメイド治療のための治療薬の選択と使用法ガイドライン 実地医家に必須の56疾患】 代謝性疾患 脂質異常症 *Medical Practice* 27 巻臨増 Page80-86(2010.05)
 14. The International Cancer Genome Consortium: Masui, T. as a member of International Data Access Committee. International network of cancer genome

- projects. *Nature*. 2010;464(15):993-998
15. Current Asia Pacific Anticancer Therapy and Research Initiative and Strategies: Editors: Hao, X., Hill, D., Kakizoe, Norie, Kawahara, Tohru, Masui, Jae Kyung, Roh, Kazuo, Tajima, Ibrahim A. Wahid; *Jpn J Clin Oncol*; 2010; 40.
 16. Norie Kawahara, Tohru Masui, Jae Kyung Roh, Xishan Hao, David Hill and Hideyuki Akaza. What Should We Do to Raise Awareness on the Issue of Cancer in the Global Health Agenda. *Current Asia Pacific Anticancer Therapy and Research Initiative and Strategies*. *Jpn J Clin Oncol*. 2010; 40(Supplement): i82-i85
 17. 増井徹、ファーマコゲノミクス検査を活用する創薬と国際化に向けて、臨床検査. 2010; 54(10): 1131-1137
 18. 増井徹、ヒトを生物として研究する場としてのバイオバンク、日本生命倫理学会ニューズレター. 2010; 46: 1.
 19. 増井徹、バイオバンクの現状と将来一人を研究対象とするための社会基盤—「遺伝子診断学 (第2版)」日本臨床. 2010; 68: 106-111
 20. 増井徹 ヘルシンキ宣言の改訂にみる「ヒトを対象とした科学研究」年報医事法学 2010 ; 25 : 20-29.
 21. 増井徹、バイオバンク、生命倫理、編集：玉井真理子、大谷いつみ、有斐閣、2011, 95
 22. Masui, T. Researchers' Integrity of Researchers: acquiring reactivity is losing responsibility. in *Research Integrity*, eds. Tony Mayer and Nick Steneck, 2010 in press.
 23. 増井徹 ヒトを対象とする研究の倫理：ヘルシンキ宣言の改訂の意味するもの「生命科学・医学と法・生命倫理—生命倫理基本法に向けて—」編集：位田隆一/ドナルド・チャルマーズ, 2011
 24. Nomura T. Transgenerational health concerns from radiation in mice and humans. In: Bersimbay RI, Au W, eds. *Genome-environment interactions and genetic toxicology*. 15th Alexander Hollaender Course, Astana: Eurasian National University Press; 2010; 19-23.
 25. Iwamori M, Iwamori Y, Adachi S, Nomura T. Excretion into feces of asialo GM1 in the murine digestive tract and *Lactobacillus johnsonii* exhibiting binding ability toward asialo GM1. A possible role of epithelial glycolipids in the discharge of intestinal bacteria. *Glycoconj. J.* E-published Dec. 21, 2010.
 26. Taisei Nomura. Biological Consequence and Health Concern from Low Dose and Low Dose Rate Radiations in Mice and Humans. *Health Physics.*, 100: 266-268, 2011.
 27. A. Yogo, T. Maeda, T. Hori, H. Sakaki, K. Ogura, M. Nishiuchi, A. Sagisaka, H. Kiriya, H. Okada, S. Kanazawa, T. Shimomura, Y. Nakai, M. Tanoue, F. Sasao, P. R. Bolton, M. Murakami, T. Nomura, S. Kawanishi, and K. Kondo, Measurement of relative biological effectiveness of protons in human cancer cells using a laser-driven quasimonoenergetic proton beamline, *APPLIED PHYSICS LETTERS* 98, 053701, 2011
 28. 野村大成、梁 治子、足立成基、時田偉子、堀家なな緒、畑中英子、菊谷理絵、中島裕夫、本行忠志、藤川和男、伊藤哲夫、落合俊昌、行徳淳一郎、若命浩二。宇宙環境の人体影響評価と防護に関する研究。 *Space Util. Res.*, 2011 (in press).
 29. Cell line cross-contamination initiative: An interactive reference database of STR profiles covering common cancer cell lines. Dirks WG, Macleod RA,

- Nakamura Y, Kohara A, Reid Y, Milch H, Drexler HG, Mizusawa H. *Int J Cancer*. 126:303-4 (2010)
30. Cell line misidentification: the beginning of the end. American Type Culture Collection Standards Development Organization Workgroup ASN-0002. *Nat Rev Cancer*. 10(6):441-8(2010)
 31. Check your cultures! A list of cross-contaminated or misidentified cell lines. Capes-Davis A, Theodosopoulos G, Atkin I, Drexler HG, Kohara A, MacLeod RA, Masters JR, Nakamura Y, Reid YA, Reddel RR, Freshney RI. *Int J Cancer*. 127(1):1-8(2010).
 32. Recommendation of short tandem repeat profiling for authenticating human cell lines, stem cells, and tissues. Barallon R, Bauer SR, Butler J, Capes-Davis A, Dirks WG, Elmore E, Furtado M, Kline MC, Kohara A, Los GV, Macleod RA, Masters JR, Nardone M, Nardone RM, Nims RW, Price PJ, Reid YA, Shewale J, Sykes G, Steuer AF, Storts DR, Thomson J, Taraporewala Z, Alston-Roberts C, Kerrigan L. *In Vitro Cell Dev Biol Anim*. 46(9):727-32(2010).
 33. Growth factor-defined culture medium for human mesenchymal stem cells. Mimura S, Kimura N, Hirata M, Tateyama D, Hayashida M, **Umezawa A**, Kohara A, Nikawa H, Okamoto T, Furue MK. *Int J Dev Biol*.(in press)
- 【23年度】
1. Nishino K, Toyoda M, Yamazaki-Inoue M, Fukawatase Y, Chikazawa E, Sakaguchi H, Akutsu H, **Umezawa A**. DNA methylation dynamics in human induced pluripotent stem cells over time. *PLoS Genet*. 2011, 7:e1002085.
 2. Takezawa Y, Yoshida K, Miyado K, Sato M, Nakamura A, Kawano N, Sakakibara K, Kondo T, Harada Y, Ohnami N, Miyado M, Saito H, Takahashi Y, Akutsu H, **Umezawa A**. β -catenin is a molecular switch that regulates transition of cell-cell adhesion to fusion. *Scientific Reports*. 2011, 1:68.
 3. Nakamura A, Miyado K, Takezawa Y, Ohnami N, Sato M, Ono C, Harada Y, Yoshida K, Kawano N, Kanai S, Miyado M, **Umezawa A**. Innate immune system still works at diapause, a physiological state of dormancy in insects. *Biochem Biophys Res Commun*. 2011, 410:351-357.
 4. Toyoda M, Yamazaki-Inoue M, Itakura Y, Kuno A, Ogawa T, Yamada M, Akutsu H, Takahashi Y, Kanzaki S, Narimatsu H, Hirabayashi J, **Umezawa A**. Lectin microarray analysis of pluripotent and multipotent stem cells. *Genes Cells*. 2011, 16:1-11.
 5. Cui CH, Miyoshi S, Tsuji H, Makino H, Kanzaki S, Kami D, Terai M, Suzuki H, **Umezawa A**. Dystrophin conferral using human endothelium expressing HLA-E in the non-immunosuppressive murine model of Duchenne muscular dystrophy. *Hum Mol Genet*. 2011, 20:235-244.
 6. Differential effect of statins on diabetic nephropathy in db/db mice. Tamura Y, Murayama T, Minami M, **Yokode M**, Arai H. *Int J Mol Med*. 2011 Nov;28(5):683-7. doi: 10.3892/ijmm.2011.769. Epub 2011 Aug 10.
 7. **Yokode M**. *Nihon Rinsho*. 2011 Jan;69 Suppl 1:384-7. Review. Japanese. No abstract available.
 8. Safety and pharmacokinetics of recombinant human hepatocyte growth factor (rh-HGF) in patients with fulminant hepatitis: a phase I/II clinical trial, following preclinical studies to ensure safety. Ido A, Moriuchi A, Numata M, Murayama T, Teramukai S, Marusawa H, Yamaji N, Setoyama H, Kim ID, Chiba T, Higuchi S, Yokode M,

- Fukushima M, Shimizu A, Tsubouchi H. *J Transl Med.* 2011 May 8;9:55.
9. Risk stratification based on metabolic syndrome as well as non- metabolic risk factors in the assessment of carotid atherosclerosis. Noda H, Iso H, Yamashita S, Ueno H, Yokode M, Yamada N, Ouchi Y; Defining Vascular Disease (DVD) Research Group. *J Atheroscler Thromb.* 2011;18(6):504-12. Epub 2011 Mar 18.
 10. Sato T, Araya N., Yagishita N., Ando H., Yamano Y. Host Immune System Abnormalities Among Patients with Human T-Lymphotropic Virus Type 1 (HTLV-1)- Associated Disorders. **T-Cell Leukemia**, 65-80/234, InTech, 2011.
 11. Takamori A., Hasegawa A., Utsunomiya A., Maeda Y., Yamano Y., Masuda M., Shimizu Y., Tamai Y., Sasada A., Zeng N., Choi I., Uike N., Okamura J., Watanabe T., Masuda T., Kannagi M. Functional impairment of Tax-specific but not cytomegalovirus-specific CD8+ cytotoxic T lymphocytes in a minor population of asymptomatic human T-cell leukemia virus type 1-carriers. **Retrovirology**, 2011 in press.
 12. Usui C., Hatta K., Aratani S., Yagishita N., Nishioka K., Kanazawa T., Ito K., Yamano Y., Nakamura H., Nakajima T., Nishioka K. The Japanese version of the 2010 American College of Rheumatology Preliminary Diagnostic Criteria for Fibromyalgia and the Fibromyalgia Symptom Scale: reliability and validity. **Mod Rheumatol**, 2011 May. [Epub ahead of print]
 13. Sato T., Fujii R., Konomi K., Yagishita N., Aratani S., Araya N., Aono H., Yudoh K., Suzuki N., Beppu M., Yamano Y., Nishioka K., Nakajima T. Overexpression of SPACIA1/SAAL1, a new gene that is involved in synoviocyte proliferation, accelerates the progression of synovitis in mice and humans. **Arthritis Rheum**, 63 (12): 3833-3842, 2011.
 14. Kitazono T., Araya N., Yamano Y., Yamada Y., Nakamura T., Tanaka Y., Inoue M., Ozaki S. Corresponding Author: Okazaki T. Advantage of higher-avidity CTL specific for Tax against human T-lymphotropic virus-1 infected cells and tumors. **Cell Immunol**, 272(1):11-17, 2011.
 15. Araya N., Takahashi K., Sato T., Nakamura T., Sawa C., Hasegawa D., Ando H., Aratani S., Yagishita N., Fujii R., Oka H., Nishioka K., Nakajima T., Mori N., Yamano Y. Fucoidan therapy decreases the proviral load in patients with human T-lymphotropic virus type1-associated neurological disease. **Antivir Ther**, 16(1):89-98, 2011.
 16. Sato T., Konomi K., Fujii R., Aono H., Aratani S., Yagishita N., Araya N., Yudoh K., Beppu M., Yamano Y., Nishioka K., Nakajima T. Prostaglandin EP2 receptor signalling inhibits the expression of matrix metalloproteinase 13 in human osteoarthritic chondrocytes. **Ann Rheum Dis**, 70(1): 221-226, 2011.
 17. Sato T., Azakami K., Ando H., Araya N., Yamano Y. Human T-lymphotropic virus type 1 (HTLV-1) and innate immunity. **Inflammation and Regeneration**, 31(1): 110-115, 2011.
 18. Araya N., Sato T., Yagishita N., Ando H., Utsunomiya A., Jacobson S., Yamano Y. Human T-Lymphotropic Virus Type 1 (HTLV-1) and Regulatory T Cells in HTLV-1-Associated Neuroinflammatory Disease. **Viruses**, 3: 1532-1548, 2011.
 19. 山野嘉久、佐藤知雄、新谷奈津美、安藤仁、八木下尚子 HAM 専門外来の取り組み **神経内科**, 75(4) 387-392, 2011.
 20. 鈴木登、遊道和雄、岡寛、山野嘉久 再発性多発軟骨炎 **リウマチ科** 45(5): 510-514, 2011.

21. 安藤仁 八木下尚子 新谷奈津美 佐藤知雄 山野嘉久 HTLV-1関連脊髄症 (HAM) の病態と治療 医療と検査機器・試薬 34 (4) 別冊 機器・試薬 34 (4) : 472-477, 2011.
22. 山野嘉久 HTLV-1 キャリアー, HTLV-1-associated myelopathy(HAM) 患者診療の現状と問題点 血液内科 63 (1) : 81-86, 2011.
23. 増井徹、「研究のための試料と情報：利用方針作成のための雛形 英国国立がん研究所 (翻訳)」、(Samples and Data for Research: Template for Access Policy Development, National Cancer Research Institute, June 2009) 2011.
24. Tamakoshi A, Matsui K, Sato K, Masui T, and Maruyama E. Three Critical Issues to Consider Before Implementing a New Genome-Cohort Study in Japan. J Epidemiol. 2011, 21(2): 158-159.
25. 増井徹、バイオバンク、はじめて出会う生命倫理、編集：玉井真理子、大谷いづみ、有斐閣.2011, 95.
26. Masui T. Researchers' Integrity of Researchers: acquiring reactivity is losing responsibility. in Research Integrity, eds. Tony Mayer and Nick Steneck, 2011. in press.
27. Taisei Nomura. Biological Consequence and Health Concern from Low Dose and Low Dose Rate Radiations in Mice and Humans. Health Physics., 100: 266-268, 2011. (査読有)
28. Iwamori M, Iwamori Y, Adachi S, Nomura T. Excretion into feces of asialo GM1 in the murine digestive tract and *Lactobacillus johnsonii* exhibiting binding ability toward asialo GM1. A possible role of epithelial glycolipids in the discharge of intestinal bacteria. Glycoconj. J. 28: 21-30, 2011. (査読有)
29. Yogo A., Maeda T., Hori T., Sakaki H., Ogura K., Nishiuchi M., Sagisaka A., Kiriya H., Okada H., Kanazawa S., Shimomura T., Nakai Y., Tanoue M., Sasao F., P. R. Bolton., Murakami M., Nomura T., Kawanishi S., Kondo K. Measurement of relative biological effectiveness of protons in human cancer cells using a laser-driven quasimonoeenergetic proton beamline. APPLIED PHYSICS LETTERS 98, 053701, 2011. (査読有)
30. Masao Iwamori, Akihiro Sakai, Norihito Minamimoto, Yuriko Iwamori, Kyoko Tanaka, Daisuke Aoki, Shigeki Adachi and Taisei Nomura. Characterization of novel glycolipid antigens with an a-galactose epitope in *Lactobacilli* detected with rabbit anti-*Lactobacillus* antisera and occurrence of antibodies against them in human sera. J. Biochem. 150(5):515-523, 2011. (査読有)
31. Miyake T, Ueda Y, Matsuzaki S, Miyatake T, Yoshino K, Fujita M, Nomura T, Enomoto T, Kimura T. CRABP1-reduced expression is associated with poorer prognosis in serous and clear cell ovarian adenocarcinoma. J Cancer Res Clin Oncol.,137(4):715-22, 2011 Apr. (査読有)
32. Use of BAC array CGH for evaluation of chromosomal stability of clinically used human mesenchymal stem cells and of cancer cell lines. Saito S, Morita K, Kohara A, Masui T, Sasao M, Ohgushi H, Hirano T. Hum Cell. 24(1):2-8(2011)
33. Growth factor-defined culture medium for human mesenchymal stem cells. Mimura S, Kimura N, Hirata M, Tateyama D, Hayashida M, Umezawa A, Kohara A, Nikawa H, Okamoto T, Furue MK. Int J Dev Biol. 55(2):181-7(2011)
34. ヒト多能性幹細胞の命名法の国際統一規格案について. 菅三佳, 高田圭, 小原有弘, 末盛博文, 青井貴之, 中村幸夫, 古江- 楠田美保 再生医療

(日本再生医療学会雑誌)
vol.11(1)2-8 (2011)

国際会議

1. Yukinori Tamura, Toshinori Murayama, Manabu minami, Yuki Nishikaze, Toru Kita, Masayuki Yokode, and Hidenori Arai. Inhibition of C-C Chemokine Receptor 2 Improves Diet-induced Insulin Resistance And Hepatic Steatosis in Mice. American Heart Association Scientific Sessions. Nov.16th, 2009. Orange County Convention Center
2. 1Yosuke Kameoka, 2Tsuyoshi Kasama, 3Toshiko Ito-Ihara, 4Eri Muso and 5Kazuo 1Lab. of Genetic Resources, Nat'l Inst of Biomed. Innov., 2 Showa University, Sch. of Med. 3Kyoto Univ. Sch. of Med., 4 Dept. of Nephrol., Kitano Hsp., 5 Chiba University, Sch. of Med. Possible role for the leader peptide of myeloperoxidase. the 6th International Human Peroxidase meeting, Chapel Hill, NC, USA, April 2009
3. 竹内昌男 1、竹内喜久子 1、亀岡洋祐 1、小原有弘 1、長田直樹 1、高橋一朗 1、牧野初音 2、梅澤明弘 2(1 医薬基盤研・生物資源研究部、2 国立成育医療センター・生殖医療研究部) ヒト間葉系幹細胞の長期培養による形質転換 第 32 回日本分子生物学会年会 2009 年 12 月 (横浜)
4. 南学、横出正之、Peter Libby. マクロファージの活性化を抑制する、新規の抗炎症シグナル伝達機序 第 61 回日本細胞生物学会大会 平成 21 年 6 月 3 日 名古屋国際会議場
5. 八田太一、成田慶一、柳原一広、岸本寛史、林晶子、猪原登志子、南学、村山敏典、横出正之. インフォームド・コンセントを受ける前の心理状態評価ツールの開発～医師患者間相互作用を観察するために～. 第 1 回日本心身医学 5 学会合同集会 平成 21 年 6 月 6 日 東京国際フォーラム

国内会議

【21 年度】

1. 亀岡洋祐 1、内田敬子 1、田中早苗 1、平田誠 1、田沼玲子 1、竹内昌男 1、竹内喜久子 1、長田直樹 1、高橋一朗 1、三浦典子 2、大野尚仁 2、鈴木和男 3(1 医薬基盤研・生物資源・遺伝子、2 東京薬科大・薬学・免疫学、3 千葉大・院医・炎症制御) モノバレント VH-CH1-h 型人工ガンマグロブリンの多様性と結合性の検討 第 15 回 MPO 研究会、2009 年 11 月、(下野市 自治医大)
2. 亀岡洋祐 1、内田敬子 1、田中早苗 1、平田誠 1、田沼玲子 1、竹内昌男 1、竹内喜久子 1、長田直樹 1、高橋一朗 1、三浦典子 2、大野尚仁 2、鈴木和男 3(1 医薬基盤研・生物資源・遺伝子資源、2 東京薬科大・薬学・免疫学、3 千葉大・医院・炎症制御)
6. Noboru Ashida, Sucharita SenBanerjee, Shohta Kodama, Joel A.Spencer, Parisa Zamiri², Ling Li,Robert E. Gerszten, Charles P. Lin, Michael Karin, Anthony Rosenzweig, and Masayuki Yokode. IKK β regulates Akt activation in kinase -independent manner in endothelial cells. 第 41 回日本動脈硬化学会学術集会 平成 21 年 7 月 17 日 海峡メッセ下関
7. 田村行識、村山敏典、南学、北徹、横出正之、荒井秀典. CCR2 阻害はマウスにおける食餌誘導性のインスリン抵抗性と肝脂肪蓄積を改善する. 第 44 回日本成人病(生活習慣病)学会 平成 22 年 1 月 10 日 都市センターホテル
8. 村山敏典、角栄里子、南学、猪原登

- 志子、横出正之。スポンサー機能の充実に焦点をあてた、臨床試験の基盤形成と完遂を促進する教育プログラムの開発研究。第1回日本臨床試験研究会学術集会 2010 in 東京 平成22年1月22日 ニッショーホール
9. 田村行識、村山敏典、南学、北徹、横出正之、荒井秀典。Effect of CCR2 Inhibitor on Diet-induced Development of Insulin Resistance and Hepatic Steatosis in Mice. 第74回日本循環器学会総会・学術集会 平成22年3月7日 国立京都国際会館
 10. 増井徹 自分を笑い飛ばす力：私の何が私のものか？ 自然システム学類学生のためのモデル人材講演会 金沢大学 2010年3月18日
 11. 増井徹 ヒトを対象とした研究を支えるバイオバンクの最近の動向ー米国と英国の動き 第3回6NC 研究所長および副所長の意見交換会 東京 2010年3月12日
 12. 増井徹 ヒトを対象とした研究を支えるバイオバンクの最近の動向。筑波大学医学部第2回バイオバンクセミナー、筑波。2010年2月10日
 13. 増井徹 生物資源バンクの日本と海外の現状。第9回HS 研究資源バンクセミナー「ヒト細胞・組織を創薬研究にどのように利用するか?」、大阪。2010年1月27日
 14. Masui, T. Biobanking in NIBIO.Seminar at Vanderbilt University, Human Research Protection Program. Nashville, USA. 15 January, 2010. Masui, T. Challenges of IRB in Japan. Seminar at Vanderbilt University, Human Research Protection Program. Nashville, USA. 15 January, 2010.
 15. 増井徹 ヒトを研究するためにー国内、国外のバイオバンク動向。文部科学書「大学院教育改革支援プログラム」事業大学院 GP 第2回シンポジウム「バイオバンクの現在、未来、そして生命倫理」、東京。2009年12月5日
 16. 増井徹 ヒトを研究対象とする試みとしてのバイオバンクー国内と海外の動向。第5回癌 Translational Research 研究会、千葉大学医学部、千葉 2009年12月1日
 17. 増井徹 ゲノム解析技術と ELSI 課題の変化について。ゲノムテクノロジー第164委員会第31回研究会、東京。2009年11月30日
 18. 増井徹 人由来試生物資源の創薬応用研究のためにー政策・倫理的な課題とその克服。第24回日本薬物動態学会フォーラム2009「新規生物材料と薬物動態研究への応用」京都、2009年11月29日
 19. 増井徹 ヘルシンキ宣言の改訂にみるヒトを対象とした科学研究。第39回日本医事法学会ワークショップ1(講演とオーガナイザー)、大阪、2009年11月28日
 20. 増井徹 ヒトを対象とした研究のために最近の動向ー海外から国内の動きについて。東京女子医大ハイテクリサーチセンター、東京 2009年11月27日
 21. Masui, T. Cance: From Person to Societal. The 5th Asia Cancer Forum, Tsukuba. 12 November, 2009.
 22. 増井徹 人体由来試料等の流通について 医学研究政策研究会、東京 2009年10月3日
 23. Masui, T. Comments on the Biobank Taiwan and its governance. Academia Sinica, Taiwan, The Foundation and Prospective of Life Science Research Governance Frame. Shinchu, Taiwan, 29 September, 2009.
 24. 増井徹 バイオバンキングとは?ーわたくしのものであって、わたくしだけのものではない。文部科学省